

事業名	スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール	
主管課及び関係課(課長名)	(主管課) 初等中等教育局 国際教育課 (課長:山脇 良雄)	
施策目標及び達成目標	<p>施策目標2-1 確かな学力の育成</p> <p>達成目標2-1-1 学習指導要領の目標・内容に照らした児童生徒の学習状況の改善を図り、知識・技能はもとより、学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力等まで含めた「確かな学力」を育成する。</p> <p>達成目標2-1-5 英語教育の改善の目標や方向性を明らかにし、その実現のために国として取り組むべき施策を盛り込んだ「英語が使える日本人」の育成のための行動計画を平成15年3月に策定し、計画に基づいた施策を実施することにより、平成19年度末までに「英語が使える日本人」を育成する体制を確立する。</p>	
事業の概要	<p>本事業は、英語教育を重点的に行う高等学校等を「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(SELHi)」として指定し、英語教育を重視したカリキュラムの開発、一部の教科を英語によって行う教育、大学・中学校等や海外姉妹校との効果的な連携方策等についての実践的研究を行う。</p> <p>また、各指定校の研究目的・手法・成果の普及等のため、公開フォーラムの開催やホームページを作成する。</p> <p>本事業は、英語教育の改善のため、英語教育を重点的に行う高等学校等を3年間スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(SELHi)として指定し、英語教育を重視したカリキュラムの開発等を行い、その研究成果を広く一般の学校に普及させることによる高等学校段階における英語教育の改善や英語力の向上を目的としており、施策目標・達成目標を達成する上で必要な事業である。</p> <p>85校 100校 拡充</p>	
予算額及び事業開始年度	平成17年度概算要求額:613百万円(平成16年度予算額:510百万円) 事業開始年度:平成14年度	
事業開始時において得ようとした効果	高等学校および中高一貫教育校における英語教育を重視したカリキュラムの開発、一部の教科を英語によって行う教育、大学・中学校等や海外姉妹校との効果的な連携方策等についての実践的研究等を推進し、得られた効果や手法等を普及する。	
得られた効果	スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール事業における英語教育の改善や指導法の開発、大学・中学校等や海外姉妹校との連携、研究発表会、毎年度実施する連絡協議会などを通じて、学校や英語科全体で本事業に取り組む機運が高まっていることや、生徒の英語教育へのモチベーションの向上などが見られた。	
得ようとする効果	高等学校および中高一貫教育校における英語教育を重視したカリキュラムの開発、一部の教科を英語によって行う教育、大学・中学校等や海外姉妹校との効果的な連携方策等についての実践的研究等を引き続き推進する。併せて今後は、各校の取組を評価・HP等での公表により全国的な普及・啓発を図る。	<p>達成年度</p> <p>平成19年度</p>
必要性	<p>「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2004」(平成16年6月3日閣議決定)において、「確かな学力」の向上が求められている。</p> <p>これまでも様々な施策を行う中で、国民の子どもたちの学力に対す不安を払拭し、「新しい時代を切りひらく心豊かでたくましい日本人」を育成するため、学校教育の質の一層の向上は喫緊の課題である。</p> <p>このような状況を踏まえ、新学習指導要領の実施3年目に当たっては、学力向上を企図した各種支援事業を着実に推進するとともに、本年5月に報告された教育課程実施状況調査の結果等を踏まえ、児童生徒に対するきめ細かな対応を一層進める観点からもスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールなどの大幅拡充を行い、新教育課程のねらいを実現するとともに、公教育の質を着実に向上させる必要がある。</p> <p>また、文部科学省では、経済や社会のグローバル化が急速に進展する中、我が国の国際化に対応するため、国際的共通語としての英語によるコミュニケーション能力を身につけるため、「英語が使える日本人」を育成する体制を確立すべく、平成20年度を目指した英語教育の改善の目的や方向性を明らかにし、その実現のために国として取り組むべき施策を具体的に「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」としてまとめており(平成15年3月策定)、目標として「中学校・高等学校を卒業したら英語でコミュニケーションができる」「大学を卒業したら仕事で英語が使える」を掲げている。</p> <p>スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールは、英語教育を重視したカリキュラムの</p>	

	<p>開発、一部の教科を英語によって行う教育、大学・中学校等や海外姉妹校との効果的な連携方策等についての実践的研究を行うものであり、当該行動計画中にその指定校数について「平成17年度までに100校を指定する」とされている。</p> <p>こうしたことから、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールの実施により、先進的な英語教育に関する取組を推進し、その成果の周知・普及につとめることが、我が国の英語教育の向上、ひいては確かな学力の向上のためにも不可欠である。</p>
効率性	<p>スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールは、国際化に対応するべく人材の育成のために文部科学省で取り組む「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」(平成15年3月策定)に基づき実施中であり、先進的な取組を推進し、その成果の分析・評価を行い、さらに周知・普及につとめることは、国と地方(及び各学校)の適切な役割分担という観点から効率的である。</p>
有効性	<p>各学校における研究の進捗状況については、中間報告書・報告書の分析、実地調査、教員や生徒の研究発表や意識調査、さらに連絡協議会等の実施を通じて、把握。</p> <p>生徒の英語力については、指定校の生徒の英語力を図った英検・TOEIC・TOEFLや独自の英語力テストなどの変化等を通じて把握。</p> <p>評価については、独自に開発した評価指標、英語教育の効果的な指導法の開発、大学や中学校との連携の在り方等について、企画評価協力者らにより評価を行う。</p> <p>また、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール校の卒業生の大学入学後の追跡調査を実施することも検討。</p> <p>なお、各指定校において取り組む独自の課題に対する成果の達成は、その目標とすることが各々の指定校で異なることから、一律に比較することが出来ないが、生徒の英語に対する意識調査や英語力の実態調査を参考とする。</p>
	<p>得ようとする効果の達成見込みの判断根拠(判断基準)</p> <p>本事業においては、すでに英語教育の改善や指導法の開発、大学・中学校等や海外姉妹校との効果的な連携方策、生徒の英語力の評価などに各校で研究を行っており、研究発表会や毎年度実施する連絡協議会などを通じて、情報交換や情報提供を行っている。</p> <p>各指定校では、学校や英語科の教員の意識の向上のみならず、生徒の英語教育へのモチベーションの向上などが見られており、引き続き実施することで一層に効果が得られるものと判断。</p>
公平性、優先性	<p>本事業は、指定校を公募により募集し、外部有識者(企画評価協力者)による評価等を基に指定校を選定する。初等中等教育段階からの英語が使える人材の養成は我が国において喫緊の課題であるため、優先的に実施する必要がある。</p>

スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(SELHi)



国内の高等学校

(平成16年度予算額 510百万円)
平成17年度要求額(案) 613百万円

対象校数 85校 100校(拡充)

情報提供HP

情報・研究成果

成果の普及

高校生フォーラムの開催



情報・研究成果

教員・生徒の参加

企画評価会議
指導・助言
実地調査

連絡協議会

研究開発校の指定

MEXT



BOE



教員加配
ALT及び特別非常勤
講師等の優先的配置

大学教員、留学生等を
特別非常勤講師として派遣

大学が設置する特別講座
への高校生の派遣

スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール
英語教育の重点的实施に関する実践研究
一部の教科を英語で行う教育に関する研究、等

インターネットを通じた
合同授業、交流

海外姉妹校

小・中連携協議会



大学



中学校



小学校

